

理事長挨拶

学校法人 加計学園
理事長・総長 加計 晃太郎



新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、ワクチン接種が始まったとは言え、変異株の出現により収束の目処が全く見通せない状況が続いています。この度のコロナ禍は教育機関の意識と価値観に大きな変化をもたらしました。教育現場においては一時的な授業の遅れにより学事日程の変更を余儀なくされましたが、教育の継続のため通信技術を活用したオンライン授業を実施するなど新たな教育への挑戦の足掛かりともなりました。

昨年度は岡山理科大学が第三期の認証評価を受審しましたが、今回は内部質保証を重視した評価が行われたなか、実地調査において本学のコロナ禍での教育の継続について委員より大学の迅速な対応が評価されるなど教育の質保証に対する取組について教育機関としての社会的責務を果たしているのではないかと自負しております。

2017年に第1期中期計画（2017～2021）を掲げ、計画に基づき教育事業を展開して参りましたが、本年度はその最終年となります。この5ヶ年の事業展開を振り返り評価すべき点と改善すべき点とを踏まえ、次の中期計画に繋げていかなければなりません。今後、教育機関に求められているのは「新たな価値を創出できる人材の養成」であります。本年度はその人材養成に必要な能力を養う教育を実践する体制を整備すると同時に、本学園の特徴と強みを活かした私学教育を展開する年として参りたいと存じます。

教育機関としては学生生徒の成長を主眼とした教育の実践となりますが、岡山理科大学ではトータルキャリアポートフォリオを稼働させ、学生一人ひとりが成長を実感できる教育拠点を目指して参ります。倉敷芸術科学大学では創立以来掲げている芸術と科学の協調・融合を教育プログラムに組み込んだ「アート&サイエンス教育」プログラムの開発に取り組みます。千葉科学大学では学生の能動的な学修を促す教育を実施するため、総合学習・日本語支援センターを設置し、全学体制で教学改革に取り組みます。附属高等学校・中学校、専門学校においても学生生徒の能力を最大限に引き出し、成長を実感できる教育を展開して参ります。

近年、我が国は急速に少子高齢化が進み、2040年には18才人口が88万人まで減少すると予測されています。地方においてはコロナ禍の影響もあり、地域経済の縮小化などが見られ、地方の活力を取り戻すことが地域社会の大きな課題となっています。これらの課題に果敢に取り組むべく学園の教育研究資源と人的資源を用いて、自治体及び産業界との産学官連携により持続可能な社会の実現にも寄与して参りたいと存じます。

我々は建学の理念とミッションのもと、各設置校が掲げた中期目標の達成に向けて教職協働で取り組むことで、教育機関としての社会的責務を果たして参りたいと存じます。